

学部 / 看護専門領域 / 健康・疾病・障害の理解

科目コード:130009

解剖生理学実習 Practicum: Human Anatomy and Physiology

担当教員	市丸 徹										
実務経験											
開講年次	1年次後期		単位数	1			授業形態	講義、演習、実習			
必修・選択	必修		時間数	45							
該当ディプロマポリシー	(1)		(2)	○	(3)	◎	(4)		(5)		(6)
Keywords	解剖学、生理学、感覚細胞、順応、盲点、遠近調節、二点弁別閾、心電図、電気的心軸、核心温、体温調節中枢、発熱、酸塩基平衡、代償作用、浸透現象、膠質浸透圧、腸肝循環、性周期、体表解剖学、胸腔臓器、腹腔臓器、心臓の拍動										
学習目的・目標	<p>解剖生理学、解剖生理学演習の各講義で得た知識をより深く理解し、定着させるための実習・演習・講義を行います。また、まとめ回での発表・討論とそれに向けての準備を通して、主体的な学習を身に付けます。</p> <p>【目的】 自分の身体や生体材料などを用いた演習・実験を通して、生命現象に対する理解を深める。また自ら適切に判断し、的確に行動できる思考能力を養う。</p> <p>【目標】 1. 全員が実習に参加し、自分の知識を再確認する。 2. 解剖学・生理学の基礎的な実験手技を体験する。 3. 実験結果のまとめ方とプレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p>										
授業計画・内容											
回	内容										
1-2	感覚器系(体性感覚、特殊感覚)										
3-4	心電図、血圧、肺気量、感覚(実習)										
5-6	まとめ・発表会1(演習)										
7-8	体温調節のしくみ、発熱										
9-10	酸塩基平衡の調節										
11-12	浸透圧実験(実習)										
13-14	まとめ・発表会2(演習)										
15-16	栄養素の利用										
17-18	生殖器系のはたらき										
19-20	体表解剖学(演習)										
21-22	ラット解剖(実習)										
23	まとめ・発表会3(演習)										
教科書	座学・演習の回では講義資料(PDF)を、実習の回では事前に手引書を配布する予定です。 解剖生理学、解剖生理学演習での教科書・参考書は各自で必要に応じて使用してください。										
参考図書等	三角定規、分度器、色鉛筆(12色程度)、白衣を用意して下さい。 白衣の使用は11月以降です。10月に白衣の共同購入の機会がありますが、高校等で使用していたものでも構いません。 三角定規と分度器は10月(心電図)、色鉛筆は1月(ラット解剖)に使用します。										
評価指標	成績評価対象者:出席2/3以上。レポート提出者。 試験60%、受講態度・レポート40%の配分で評価します。 レポートは必ず提出して下さい。未提出でも督促はしません。また実習への参加を重視しています。基本的には全出席して下さい。実習欠席者は自ら教員まで申し出てください。連絡がない者、レポート未提出者は単位が認定されない場合があります。										
関連科目	解剖生理学、解剖生理学演習、代謝と栄養、疾病障害論、人間病理学、他多数										
教員から学生へのメッセージ	<p>実習・演習においては、自分自身の手を動かし、自分で考え工夫することにより真の知識が身につきます。参加して実行することが重要です。また必ず事前に実習の手引き等で予習しておいてください。</p> <p>実験では、常に教科書どおりの結果が得られるとは限りません。予想外の結果にも何らかの理由があるはずですが、その理由を、これまでに学んだ知識を総動員して応用し、自分なりに考えてレポートにまとめ、議論して下さい。この科目を通して、主体的に考え、学んでいく姿勢を養ってくださることを期待しています。</p>										